

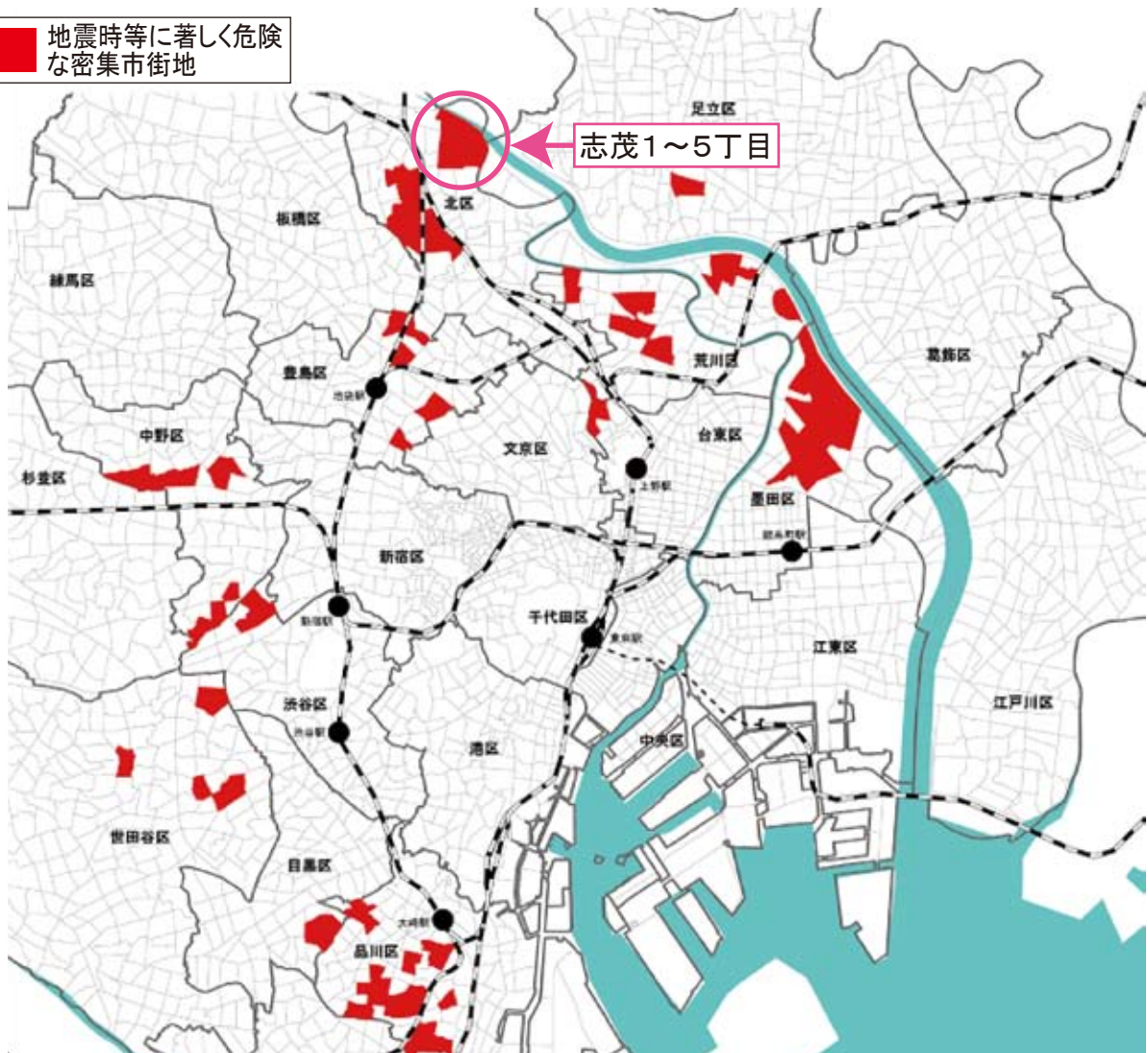
志茂1～5丁目

志茂地区「地震時等に著しく危険な密集市街地」に位置づけられました

国（国土交通省）住生活基本計画

- ・地震時等に著しく危険な密集市街地*
 - ・全国で約6,000ha
 - ・平成32年度（8年程度）までに概ね解消を目標とする
- *全国の密集市街地のうち「延焼危険性」又は「避難困難性」が高い地区を特に「地震時等に著しく危険な密集市街地」として位置づけ、国が平成24年10月に公表。

地震時等に著しく危険な密集市街地



首都直下型地震（M7程度）
今後30年以内に発生する確率70%

被害想定 死者 約9,700人

区では防災まちづくりの取組を促進するための調査・検討を行っています。

事務局・問い合わせ先 北区まちづくり部 まちづくり推進課 担当：佐野、半澤
電話 3908-9154 FAX 3908-2244
E-mail: machisuishin-ka@city.kita.lg.jp

防災性能と居住環境の向上を図り安全で住みよいまちづくりを目指して

志茂まちづくり協議会ニュース

防災特集号

第31号 平成24年11月

発行：志茂まちづくり協議会 URL: <http://shimo.machikyou.net/>

9月15日(土) 志茂地区
地域あげての総合防災訓練が
なでしこ小学校で開催されました



バケツリレー

9月15日（土）なでしこ小学校で、全児童400人と志茂地区内の町会、消防団、住民の方々等、総勢1,100人による志茂地区をあげての防災訓練が実施されました。

小学生と大人が一緒になり放水訓練やバケツリレー等をおこない。地域の一員として共に助け合いながら地域を守る「共助」の大事さを実感する一日となりました。



仮設トイレ組立・利用訓練



消火器訓練



給水訓練



救護訓練

がれき処理



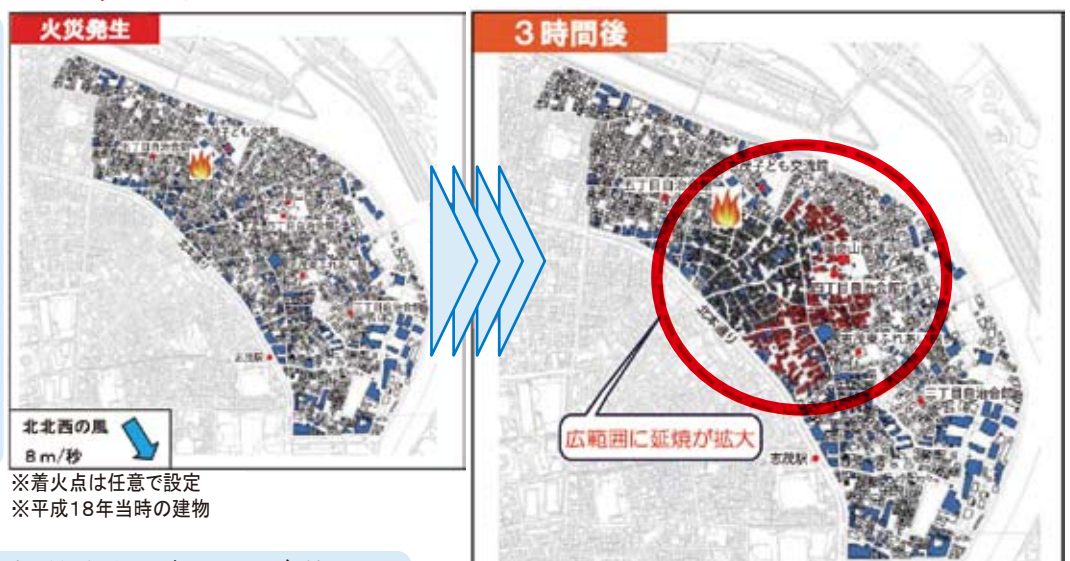
東京都「木密地域不燃化10年プロジェクト」

阪神淡路大震災を語る（地域密着型集会）の様子をお伝えします

7月28日（土）東京都が「木密地域不燃化10年プロジェクト」の一環で、志茂地区を対象に「阪神淡路大震災を語る～住宅密集地域を襲った火災～」と題した地域密着型集会を開催しました。

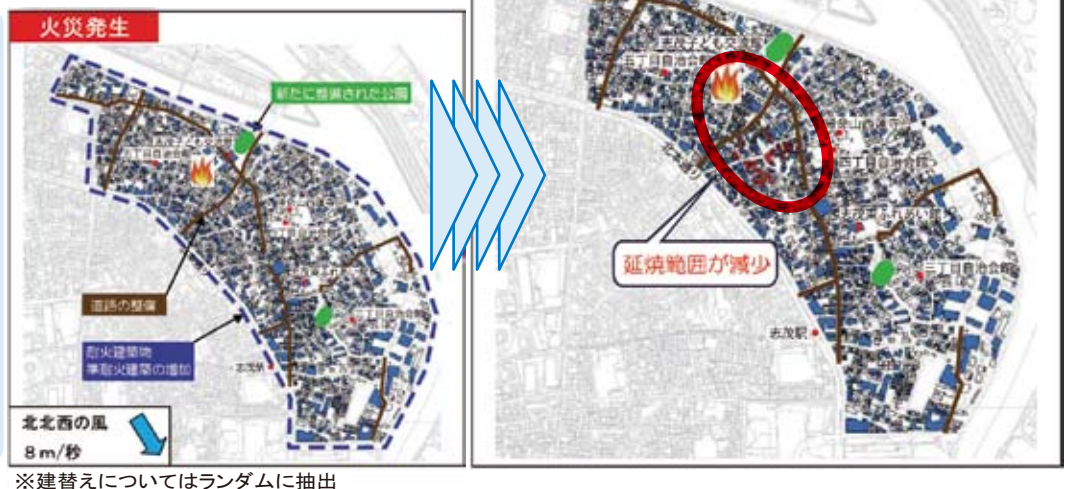
火災延焼シミュレーション

震災時、志茂5丁目付近で火事が発生したら。

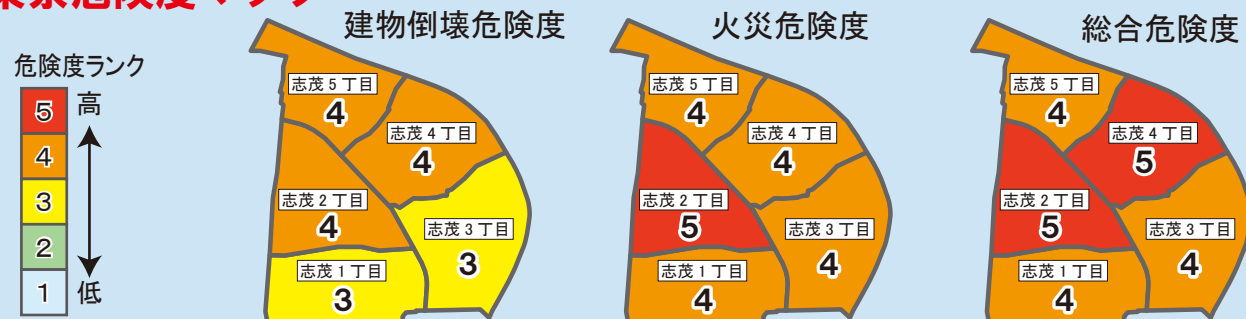


道路整備などの防災まちづくりが進み、地域内木造建物の約6割が準耐火、耐火建築物に建て替わった場合。

建物の不燃化や、道路、公園の整備が延焼を食い止める！



東京危険度マップ



大震災当時、神戸市消防署の当直で、消防活動に従事。その後、長田区のまちづくり協議会会長を務めた、野村 勝さんが「住宅密集地を襲った阪神淡路大震災の生々しい被害状況」と「実体験に基づく防災対策」を語ってくれました。

阪神淡路大震災の語り部 野村さんが語る「公助」はあてにならない！事前の対策が大切



震災前 神戸では、震度5程度の計画しかなく、行政による事前の取り組みは皆無だった。

・行政も含め、神戸市民は誰も地震について真剣に考えていなかった。

1995年1月17日（火）阪神淡路大震災発生 世界初の都市型直下地震
M7.3 神戸市 震度7

被害状況 たった11秒でまちが無くなってしまった・・・

・死者6,434名、建物全壊104,906棟

- 火災**
 - 同時多発的な火災が発生し、消防で対応できたのはごく一部。家屋やブロック塀の倒壊により道路が塞がり、緊急車両が火災現場に行けなかった。火災現場に着いても、水が無くなってしまった。防火水槽を求めて歩き回るが、その間も炎は街を焼き尽くしていった。
 - 消防士としてやることはやったが、どうすることもできなかった。
- 建物倒壊**
 - 全壊建物は旧耐震基準（昭和56年築以前）の建物の割合が高い。
 - 建物の下敷きになって助けられた人のうち
 - （公助）消防・警察・自衛隊・・・5%
 - （共助）近所の人・・・95%

事前対策 志茂の住民に向けて、野村さんからのメッセージ

- 公助**
 - 災害時に公助はあてにならない。ただし、事前の防災の取り組みは行政の力を大いに活用すべき。
 - 「今からできる取り組み」
 - 消防活動のための一定幅員以上の道路整備。
 - 震災時に有効な耐震性貯水槽の設置。
 - 延焼防止に有効な公園整備や植樹。
 - ブロック塀等も規制できる「地区計画」の導入も有効。
- 共助**
 - 自主防災組織の立ち上げと訓練が大切。
 - 日頃から隣近所とは仲良く。近所の人でも仲の良い人から先に救助した例が多い。
- 自助**
 - 最も大切なことは、自分の命は自分で守る！
 - 一家の内外に消火器各1台設置、自動車ジャッキの保管。
 - 玄関に水バケツ1杯、風呂水は捨てない。

最後に 復興まちづくりを行った経験から・・・住民が本気になれば、行政は動く。